

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名

【 熊本県 】 熊本市立白坪小学校

1 実践テーマ	【 V 】
2 実施対象者	全校生徒 521 名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 (講演：学活 実技：体育)</p> <p>② 行事名 ()</p> <p>③ その他 ()</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ()</p> <p>② その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	2020 年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会への機運を高め、スポーツ選手から夢に向かう姿勢を学ぶ。
5 取組内容	<p>オリンピックによる講演会及び実技指導</p> <p>平成30年2月9日(金)に本校にて、江里口匡史氏(オリ陸上：100メートル・400メートル)を迎え、講演会及び実技指導を行った。</p> <p>(1) 講演 タイトル：「スポーツ選手から学ぼう」 はじめに、体育館の真ん中に作った走路において、子どもたちの前でクラウチングスタートからのスタートダッシュを実演していただいた。担当教諭がスタートの姿勢や足の運びを説明し、その後講演に入った。 江里口氏の講演の大まかな内容は以下の通りであった。</p> <p>高校までは熊本県菊池市に住んでおり、大学は早稲田大学に進学、その後、大阪ガスに所属し、現在は7年目である。 兄の後をついて回る幼少時代で、走ることが好きだった。成績はよくなかったが、走るのが好きだったので、中高と陸上を続けた。 自分が経験したオリンピックについてお話しをしたい。 選手村は広い敷地の中にタワーマンションのようになっていて、24時間あいている食堂やマクドナルドがあった。飲食物は全てフリーで提供されており、地域の食事が用意されていた。世界各国の選手</p>

	<p>が集まっているため、特別な雰囲気だったことを覚えている。 自分は100メートルと400メートルリレーに出場した。 100メートルは予選で敗退することになったしまった。レース当日のことよりも前日のことのほうが記憶に残るほど、前日は緊張していた。敗退から1週間程度でリレーに出場するための気持ちのコントロールをしなければならなかったが、難しかった。 リレーは個人ではなくチームでのレースなので、周りの支えを非常に感じた。5、6万人の観衆が埋める会場はものすごい雰囲気だった。ドーピング違反が他国にあり、最終的に4位という結果であった。 オリンピックでは単に競技だけでなく、様々なことを勉強できた。2年後の東京大会、みんなは観るだけでもすごくいい勉強になるだろう。自国開催ということで、その雰囲気を生で感じ、なにか人生へのヒントを得てもらいたい。 自分の好きなことや熱中していることはありますか？ぜひそれを見つけて、自分が成長し、夢に向かってレベルアップできるよう頑張っていてほしい。好きなことを一生懸命頑張っていこう。</p> <p>(2) 実技指導 実技指導では、グラウンドにて短距離走の走り方を教えていただいた。</p>
6 主な成果	講演内容からみる成果 オリンピックという舞台は、出場したスポーツ選手に多くの学びを与えてくれる場であることを理解した。
7実践において工夫した点 (事業の特色)	体育館の中央にコースを設け、全児童の前でパフォーマンスを披露してもらうことができ、子どもたちの興味関心を引くことができた。
8主な課題等	実技指導が単学年となり、全校児童に実施することができなかった。
9来年度以降の実施予定	なし